

# 博物館だより



No.185

令和4年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー  
2022年4月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

休館日 ※情報はR4.3.19現在

## ◆博物館NEWS

### 博物館企画展

#### 「逸木コレクション」 刃(yaba)〜みやこの刀剣美

当館では、企画展「逸木コレクション」刃(yaba)〜みやこの刀剣美(展)を開催しています。

この企画展は、みやこ町勝山松田出身の故逸木俊司氏が当館に寄贈して下さった多数の「刀剣」を展示するものです。

開催期間中は、みやこ町の刀剣の歴史について当館学芸員によるギャラリートークを実施します。展示や関連事業を通して「美術品」としての日本刀の世界をお楽しみください。

#### ■会期

令和4年3月25日(金)〜  
5月15日(日)

#### ■場所

みやこ町歴史民俗博物館展示室

#### ■観覧料

常設展の観覧料でご覧いただけます  
ギャラリートーク

「刀剣の歴史と美」

みやこ町の資料を中心として

講師 井上信隆(当館学芸員)

日時 4月29日(金・祝)

午前の部10:00〜(20名)  
午後の部13:00〜(20名)

場所 みやこ町歴史民俗博物館

定員及び申し込み方法

\*先着40名まで参加可(定員になり次第締め切らせていただきます)  
電話による事前申込の先着順となります。申込受付は4月25日(金)10時〜

## 歴史を学ぼう！文化に触れよう！

### 令和4年度 博物館歴史講座受講生募集！

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩紀行講座」「古典かな講座」「古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。

受講を希望される方はお気軽に博物館までお問合せください(継続して受講を希望される方の申込みは不要です)。

なお、各講座では毎回、資料代として200円が必要ですのでご了承ください。

#### 講座内容のご紹介

##### 【漢詩紀行講座】

●講師 宮原加代子先生

●内容 いにしへの風雅な社会を漢詩の中に探求・鑑賞してゆきます。あわせて漢詩の基礎も学習します。漢字に興味のある方はふるってご参加ください。辞書・筆記用具をご持参下さい。

●実施日 毎月第1土曜日

午前9時30分〜

##### 【古典かな講座】

●講師 宮原加代子先生

●内容 古典の名文・名歌を、ひと月一作品ずつ鑑賞と万葉仮名で手習いをします。

初めの方も歓迎です。筆記用具・用紙などをご持参下さい。

●実施日 毎月第3土曜日

午前9時30分〜

##### 【古文書講座】

●講師 川本英紀先生

●内容 江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に関わる古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。

●実施日 毎月第2土曜日

午前10時〜

##### 【みやこ学講座】

●講師 当館学芸員

●内容 「みやこ町と周辺の自然と文化遺産」をテーマに、ゆかりの話題を交え関連学習を進めます。郷土の歴史についての講義はもちろん、実際に現地(遺跡やゆかりの地など)を歩き・見て・触れる体験型学習も行います。

●実施日 毎月第4土曜日

午前10時〜

\*見学会等は開催の都度連絡します。



▲参考:古文書講座における学習会の様子 一見難解な古文書も講師のお話と一緒に楽しく学べます

## ◆講座・教室・催し物ガイド 4月の歴史講座

### 【漢詩紀行講座】

4月2日(土) 9時30分〜

### 【古文書講座】

4月9日(土) 13時30分〜

### 【古典かな講座】

4月16日(土) 9時30分〜

### 【みやこ学講座】

4月23日(土) 10時〜

※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途ご案内します。

## 1月の業務日誌から

1月20・21日(木・金)の2日間、行橋市立泉小学校の3年生148名を対象に「昔の道具」の出前授業を行いました。昔の道具を見て、現在の生活の有難さを実感することができ、また災害時にはこのような道具が重宝されることも学ぶことができました。



▲おじいちゃん・おばあちゃん世代が使っていた道具に興味津々の様子でした。

みやこの歴史発見伝 146  
みやこの猫ものがたり ④

「猫」の足跡から探るみやこの歴史  
— その4 —

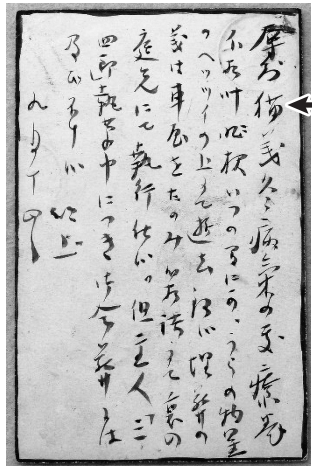
「大國ロシア」との戦いの中で

2月24日、ロシアがウクライナへ軍事侵攻し、戦場となった町の惨状が連日報道されています。今から118年前の明治37年（1904）に日本が大國ロシアを相手に戦ったのが日露戦争です。思永館（現在の育徳館高等学校の前身）出身の奥保肇は、この戦争で第2軍の司令官として指揮を執っています。この戦争の勝敗を左右する軍事拠点となったのが中国北東部の都市で、特にその要となったのが難攻不落を誇るロシア軍の「旅順要塞」でした。夏目家に猫が迷いこんだ明治37年（1904）6月頃、日本軍はこの要塞を包囲します。半年に及ぶ激戦の末、旅順要塞のロシア軍は降伏します。明治38年（1905）正月に国内で戦勝を伝える「号外」が配られ



堺利彦(1870~1933)

から大人まで幅広い年齢層に親しまれたことがベストセラーに繋がったという見解もあります。旧制豊津中学（現在の育徳館高等学校）出身で「日本社会主義運動の父」と称される堺利彦



「猫」の死「通知」  
(みやこ町歴史民俗博物館蔵)

彦もその一人で、あまりの面白さに、それまで面識のなかった漱石に宛て「家族を相手に3夜続けて『猫』の朗読会を開きました」という内容の「ファンレター」を送り、そのハガキが近年発見されています。堺利彦はロシアとの戦争に対して頑なに「非戦」を唱えます。このような強硬な活動の一方で、朗読会はかけがえのない一家団欒の時間だったとみられ、「猫」を介して彼が大切にした「家族愛」を垣間見ることが出来る資料としても注目されます。このように「猫」を執筆した漱石の想定をはるかに上回る反響が、「心の病」の克服と併せ、後に作家に転身する自信に繋がったとみられています。

中、「吾輩は猫である」第1話を掲載した雑誌「ホトトギス」が発売されました。大國ロシアに勝利した戦勝ムードに沸く一方、旅順要塞の戦いで約1万6千人、戦争全体では8万人以上の日本人の尊い命がその代償となりました。「吾輩は猫である」の主人公「猫」の滑稽な姿は、戦勝の一方で、心理的に疲弊した人々にひとときの「癒し」をもたらしたとも伝えられています。

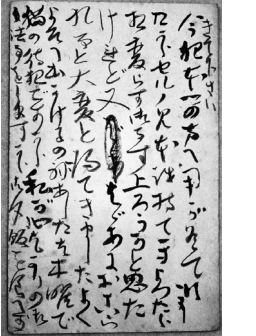
「猫」が夏目家に居候して4年目を迎えた明治41年（1908）9月13日、「吾輩は猫である」のモデルとなった「猫」が亡くなり、

その遺骸は庭にある桜の木の下に埋葬されました。漱石はその墓標に「追悼句」をしたためたと伝えられています。「猫の死」は新聞でも報道され、猫と特に親交のあった人物に宛て漱石が「黒枠付きのハガキ」でその死を「報せた」ことを掲載しています。これが所謂「猫の死亡通知」です。このハガキの文面には「猫」が亡くなった場所や、詳細な埋葬報告と併せ、この時小宮豊隆がモデルになった小説「三四郎」を執筆していたことが記されています。小宮豊隆を含む親近者4名の方に送られた、この希少なハガキは、日本の文学史の中でも特に注目される資料とされ、小宮豊隆宛に届いた「死亡通知」は、当館を代表する資料に位置付けられています。またハガキは丁寧な「黒枠」で縁取られており、「猫」を亡くした直後の漱石の心情を垣間見ることが出来る重要な資料としても注目されています。

堺利彦をも魅了した「猫」

「猫」への「恩返し」

近年、小宮家から当館に寄贈



「猫の法事案内」  
(みやこ町歴史民俗博物館蔵)

いただいた「小宮豊隆資料」の整理作業中、鏡子夫人が小宮豊隆に宛てた「猫の法事案内」ハガキが新たに発見されました。「猫」の死から4年後の大正元年（1912）9月11日の日付がみられ、「猫の法事」を行うので

来てください」と記されています。当初、「猫」を飼うことを反対していた鏡子夫人ですが、夏目家を救った恩人となった「猫」への哀悼の意を垣間見ることが出来る大変興味深い資料です。また鏡子夫人は、毎年、「猫の命日」に鮭の切り身と山盛りにした鯉節1椀を墓前に供えたと伝えられています。漱石の「死亡通知」、鏡子夫人の「法事案内」など漱石夫妻にとって「猫」は「ペット」を超越したかけがえのない家族の一員という存在であったことを伺うことができます。晩年を迎えた鏡子夫人の家に増えた多数の猫が居ついていたことが子孫の回想録にみることでできます。このような「保護猫活動」の背景にあったのは、夏目家の「救世主」となったあ



漱石と「猫」(イメージ)

あったのかもしれない。  
(井上信隆)